

その情報は、本当にほんと？！

みなさんは、「伝言ゲーム」という遊びを知っていますか？これは「グループ内で人から人へ言葉（メッセージ）を（周りの人に聞こえないように）順に伝え、正確に伝わらない様を楽しむ遊び（Wikipedia より）」で、一番最初に伝えた言葉と、最後に聞いた人の答えが違ふほどおもしろい・・・というゲームです。

伝言ゲームは、「伝える言葉」が長かったり難しかったり、グループの人数が多かったりするほど、最初と最後の言葉の違いが大きくなります。



では、なぜ最初の言葉と最後の言葉が違ってしまふ・・・ということが起きるのでしょうか。

<理由 1>

今月の1年生のソーシャルスキルの目標「聞くスキル」のポイントは「①話している人のほうに体を向ける ②あいづち・うなずき ③相手の顔を見る ④最後まで話を聞く」ですが、伝言ゲームは基本的に④しか使えません。また「話すスキル」のポイントは「①声の大きさ ②表情 ③姿勢 ④相手の顔を見る ⑤みぶりにてぶり」ですが、①の「小さな声」しか使えません。このように、伝言ゲームは聞くポイントも、話すポイントもうまく使えないので情報がうまく伝わらず、答えが違ってしまふことが多いのです

<理由 2>

わたしたちが人の話を聞いたとき、スマホの録音機能のように、聞いたまを記憶するとは限りません。耳から入ってきた音は脳に送られて「聞いた内容」を確認するのですが、その間に伝言ゲームのように、「聞いた言葉」と「聞いたと思った言葉」が違ふことがあるのです。例えば普段から遅刻が多くて、自分でもだめだと思っていた時に先生から「最近遅刻が多いね」と言われると「また遅刻か！」って思ってしまったことがあります。実際には先生は「最近欠席が多いね」といっただけなのに、耳から聞いた言葉が脳に伝えられる間に変わってしまふ「また遅刻か！って怒られた」ことになってしまうのです。

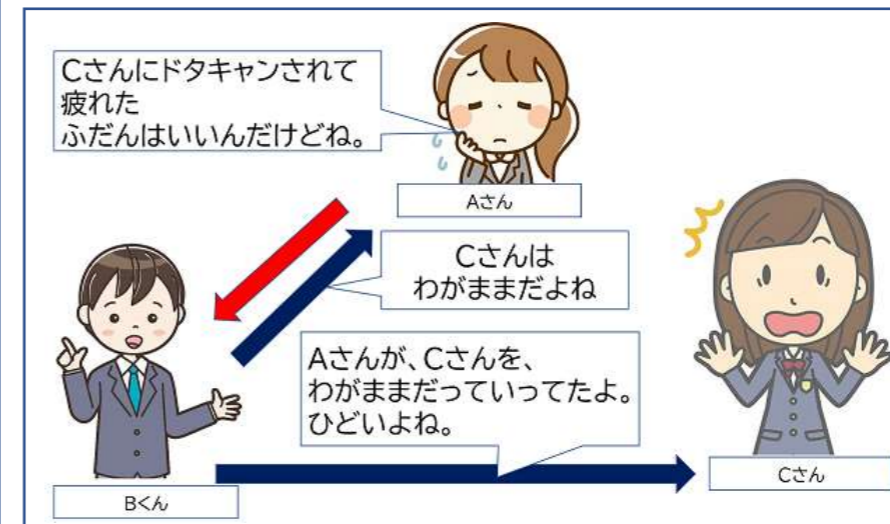


<理由 3>

自分が言ったと思った内容と、自分が実際に言った言葉が違ふことがあります。ある日ラジオを聞いていた時にこんな話題がありました。「家に大きな蚊がいてびっくりした、親指の爪位の大きさだった」「ええ！そんなに大きかったの？」「はい、前足をすり合わせる独特の動きをしていて・・・」「それってハエみたいだね。」「そうです。ハエです。え？わたし、ハエって言っていませんでした？」「いや、大きな蚊だと言ってたよ」「えええ！蚊じゃないです。ハエです、ハエ！！」こんなふうな、気がつかないうちに、自分が言ったと思った言葉と、実際に言った言葉が違ふていて、正しく情報が伝わらないことがあるのです。



ところでみなさんは、友達関係で、「〇〇さんが、あなたの悪口を言っていたよ」「〇〇さんが、ストーリーにこうやって書いていたけど、これ、あなたのことじゃない？」という「伝言」に振り回されたことはありませんか？でもその「伝言」が正しくないことがあるので、「わたしのこと、わがまま言って言ったんだって?!ひどい!」「私はわがままなんて言ってない!!」「うそ言わないで!Bくんから聞いたんだから!!!」とトラブルになってしまうことがあります。こういうときにどうしたらいいか・・・を下のイラストを使って、6月のキャッチアップタイムのベーシックで勉強したので紹介します。



AさんからBくん、BくんからCさんに話が伝わる間に悪口に変わってしまった例です。

Aさんは本当に「悪口は言ってない」、Cさんは本当に「悪口を言っていると聞いた」、Bくんも、自分が聞いた内容と違ふことを言ったとは思っていないので何が本当のことなのかかわからず、仲直りが難しくなってしまう。

こういうトラブルが起きた時に一番大切なことは、「本人から直接言われたのであれば、そのまま信じないで様子を見る」です。それは伝言ゲームのように、または上のイラストの例のように、途中で話が違ふている可能性があるからです。だからいきなり「悪口言ったんだって!」と文句を言いに行くのではなく、「こっちこそもう縁を切る!!」といきなり無視するのではなく、まずは自分の目で相手の子を見て観察して「この子はわたしの悪口をいうような子じゃない」「やっぱりその子が好きだ」「友達を続けたい」と思ったら、そのまま友達を続けられればいいし、一緒にいて「いやだな」「ちょっと苦手かも」と思ったら、少し心の距離を置いたり、違ふ人とも関わるようにしてみましよう。違ふ人と関わるのは疲れる、難しい・・・と思ったら、休み時間に一人で好きな音楽を聞いたり、図書館で本を読んで過ごすという方法もあります。大切なのは「あの人がそう言っていたから!」とそのまま信じるのではなく、もしかしたら伝言ゲームのように、話が違ふてしまっていることもあるかもしれないと思って、自分で考えることです。



ただ、SNSに関しては、スマホを見れば見るほど、考えれば考えるほど、何が本当で、何を信じていいのかわからなくなることがあるかもしれません。自分のSNSをアップしたり、だれかのSNSをチェックすることに、疲れている人もいるかもしれません。そんなときにはスマホを手放してみませんか？その時間で、直接誰かと話をしたり、本を読んだり、勉強したり、時にはぼーっと何も考えずに、聞こえてくる音、見える景色、手や足の感覚、においなどを感じてみましょう。だるい、頭が痛い、疲れている...そう感じたら、いつもより早く寝ましよう。朝になって目が覚めたら、寝る前には気になっていたこと、腹が立っていたこと、心配になっていたことが、小さく感じられるかもしれません。

ただどうしても「本当に悪口を言ったのか」相手に確かめたいときには、けんかになりにくい「大人の対応」があるので、気になる人は保健室に聞きに来てくださいね！

